

【樹木の部屋】

ケヤキ (ニレ科ケヤキ属 *Zelkova serrata*)

和名：ケヤキ(欒、槻) **別名**：ツキノキ(槻木)、ツキ(槻) **英名**：Zelkova

バラ目 落葉高木

原産地：日本、台湾、中国

花言葉：長寿、健康、幸運

花色：緑黄色



← 写真-1 ケヤキの樹形例

撮影日：2023年4月29日

撮影場所：京都府八幡市美濃山にて

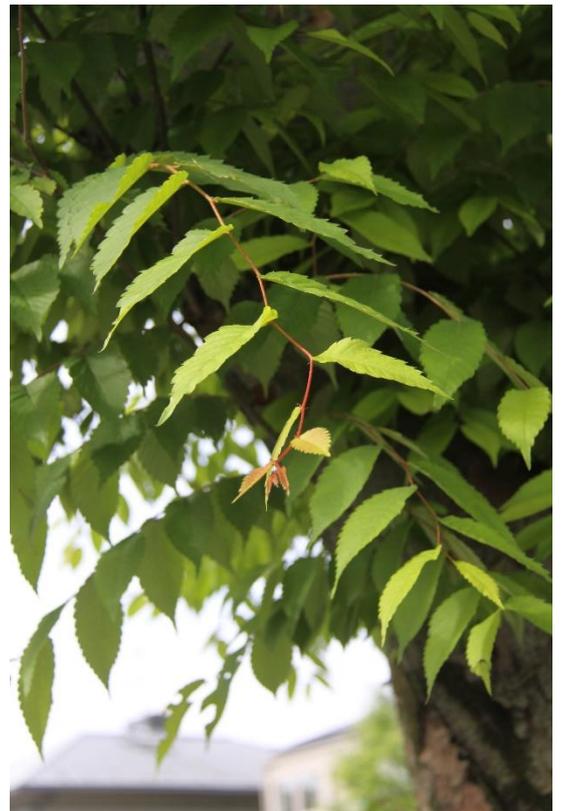
撮影者：M さん

↘ 写真-2 ケヤキの小枝(新梢)

撮影日：2023年4月29日

撮影場所：京都府八幡市美濃山にて

撮影者：M さん



← 写真-3 ケヤキ並木

撮影日：2023年4月29日

撮影場所：京都府八幡市美濃山にて

撮影者：M さん



← 写真-4 ケヤキの葉（表）

撮影日：2023年4月29日

撮影場所：京都府八幡市美濃山にて

撮影者：M さん

↓ 写真-5 ケヤキの葉（裏）

撮影日：2023年4月29日

撮影場所：京都府八幡市美濃山にて

撮影者：M さん



← 写真-6 ケヤキの樹肌

撮影日：2023年4月29日

撮影場所：京都府八幡市美濃山にて

撮影者：M さん



日本では代表的な落葉広葉樹の一つで、空へ向かって箒を逆さにした扇型に広がる樹形が美しく、街路樹や公園樹として利用され、防火や防風の目的で庭木などとしてもよく植えられています。建築材としても良材で、寺社建築によく使われているそうです。和名「ケヤキ」の由来は、「ケヤ」は古語で「すばらしい」という意味があり、「けやしの木」が転訛したものだそうです。高さ20～25mになり、大きなものでは幹径3m、高30～50mほどの個体もあるそうです。

若いケヤキの樹皮は灰褐色かつ平滑ですが、成木になると樹皮が鱗状に剥離します。さらに樹齢を重ねて老木になると鱗状の樹皮は剥がれ落ちます。新梢は褐色で無毛、ジグザグ状に伸びて皮目があります。新梢は細く、冬芽は、円錐状卵形で、横に開出します。芽鱗は紫褐色で8～10枚が4列に並びます。

葉は互生し、葉身は卵形あるいは卵状披針形で、先は鋭尖頭です。質はやや薄く、縁には曲線的に葉先に向かい、先端も尖る特徴的な形をした鋸歯があります。春の新緑や秋の紅葉(黄葉)が美しい樹木でもあります。

4～5月に、展葉と同時に、花卉の無い、淡い黄緑色で小さい花を付けます。風媒花です。新梢の下部の葉腋には雄花が、上部の葉腋に雌花が、それぞれ数個ずつ集ま

って付きます。

花後にできる果実は角が二つある直径5mmほどの歪な球形です。果実が熟するのは10月頃で、カワラヒワやアトリなどの野鳥はこれを採食します。紅葉した葉と同じような色になるため分かりにくいのですが、風が吹けば枝葉を付けたまま落下するため、路上で観察できることがあるそうです。

ケヤキの材は乾燥させても寸法が狂いやすいそうですが、長い時間寝かせれば落ち着くそうです。耐久性や耐湿性が高いため、箆笥(仙台タンスなど)、和太鼓などの道具や楽器に使われるほか、京都の清水寺などの神社仏閣の柱にも使われているそうです。材に「玉杳」や「牡丹杳」と呼ばれる模様の入ったケヤキは特に価値が高く、お盆やお椀といった伝統工芸品に使われるそうです。

剪定にはかなり強いものの、大木になるため相当なスペースが必要です。現代の一般的な家庭には不向きで、強剪定を行うとシダレヤナギのような枝葉が多数生じ、樹形が崩れます。